

今回は、
知っておくと
猫ライフが
楽しくなる、
子猫のしつけ
について
学んでみよう!!



No.4 もっと知ってほしい 子猫のこと ①しつけ編

猫の
医

「猫が飼い主さんに知ってほしいと思っていること」No.4 ①は、「子猫」について、知っているとより健康に楽しく暮らせるようになるしつけのコツを紹介します。子猫のうちから動物病院には定期的に通院し、健康診断を受けましょう。ほかに、子猫を飼い始めたときの環境の整え方などについて紹介した「子猫の医食住」は、アニマル・メディア社のホームページ <http://www.animalmedia.co.jp/> から無料でダウンロードできます。

注意点

●猫は本来臆病な動物です。飼い始めの数日は、新しい環境に慣れるまでそっとしておきましょう。

猫の幼稚園

動物病院によっては、「子猫教室」、「キトンクラス」、などの名称で子猫がいろいろな刺激に慣れることができる交流会や勉強会を開催していることがあります。子猫のうちから多くの人や動物に会い、楽しく触れ合うことで、フレンドリーで性質の良い猫に育てることができると言われていますので、積極的に利用しましょう（参加条件については、各動物病院に問い合わせましょう）

遊びながら、楽しんで覚えよう！ 子猫のしつけ3つ

STEP

1

キャリーケースに慣らしておきましょう

猫はなじみのない場所がとても苦手な動物です。でも、動物病院への通院や、入院/ペットホテルへの宿泊、災害時の一時避難などの際は、キャリーケースに入っただけの移動が必要になります。

キャリーケースに警戒心を持つようになると訓練が難しくなるので、子猫のときから慣らしておきましょう。

方法

①猫に適したキャリーケースを用意しましょう

猫に適切なキャリーケースの条件

- 上部、前部ドアが取り外し可能（前部ドアを外したまま居間に置いておける。また、上部を外せばケースに入れたまま診察可能）
- 掃除がしやすく、清潔に保つことができる
- 頑丈で壊れにくい

②キャリーケースの前部ドアを外して、普段生活している場所（居間など）に置きます

③1日1回、猫の好きなトリーツなどを少量、キャリーケースのなかに置いておきます

※ときどき、家のなかで子猫をキャリーケースに入れた状態で持ち歩き、降ろした場所でおやつを与えたり、猫の好きな遊びをしてあげましょう

これを繰り返すと、抵抗なくキャリーケースに入れるようになります。

ペットホテルへの宿泊や入院などの際、キャリーケースごとケージに入れてもらうことで猫は安心します。

また、動物病院に連れて行くときは、寝床などで普段使用している、自分のにおいがついたタオルをキャリーケースのなかに入れておくと猫は落ち着くことができます。



Point

（キャンピングキャリー
ダブルドアS：リッチェル）

STEP

2

飼い主以外の人にも慣らしておきましょう

子猫のうちから飼い主以外の人にも慣れておくと、来客のあるときや動物病院に通院するときなどに便利です。

方法

- ☑お友達を自宅に招き、来客から子猫に食べ物を与えてもらったり、おもちゃで遊んでもらしましょう
- ☑このとき、猫を追いかけたりはいたしません。猫が自分から寄ってきたときにチャンス！
- ☑来客のあるときは、あらかじめ食事を抜き、お腹を空かせておくと良いでしょう
- ※猫が恐怖を感じると逆効果になります。様子をみながら無理せずトライしてみましょう

こうした体験を繰り返すことで、フレンドリーな性格の猫に育つと言われています。

猫は成猫になると警戒心が強くなりますが、生後2～7週齢の「社会化期」にはさまざまな刺激を受け入れやすい、と言われています。子猫のときにこうした体験が乏しいまま育った猫は、成猫になってからストレス性の病気にかかりやすくなるとも言われています。子猫のうちからどう接するかはとても重要です。



STEP

3

体を触られることに慣らしておきましょう

普段から、スキンシップやお手入れ、異変がないか調べるために、子猫の体に触ってあげましょう。でも、いきなりたくさん触られると猫はびっくりしてしまいます。下記のような段階を踏んで慣らしていきましょう。

方法

- ※猫が寝そべてリラックスしているようなときに、おやつなどを与えながら行いましょう
- ※猫が嫌がったら無理強ひせず、また別のときに挑戦してみましょう

- ①歯ブラシ（ヒト用または猫用）を用意します。猫の舌に大きさをなでられたときの感触が似ている歯ブラシで、顔を中心に優しくなでられることに慣れてもらいましょう（このとき、歯ブラシをおもちゃにはしてはいけません。歯ブラシで遊びだしたらいったん終了にします）
- ②歯ブラシでなでられている間、人の手で手足を触られることに慣れてもらいましょう
- ③手足を人の手で触られることに慣れたら、爪をやさしく押し出してみましょう（嫌がったら無理をしないでください）
- ④爪を出せるようになったら、1回に1本ずつ爪を切ってみましょう。一度にすべての爪を切ろうとしないでください（爪の切り方はあらかじめかかりつけ獣医師に確認しておきましょう）
- ⑤歯ブラシで優しく口の周りを触られることに慣れさせましょう。これにも慣れたら、くちびるをそっとめくって歯ブラシを入れてみましょう（猫用歯ブラシ）。その後、少しずつ歯磨きの練習もしてみましょう



Point

噛み癖はありませんか？



●子猫が咬む理由

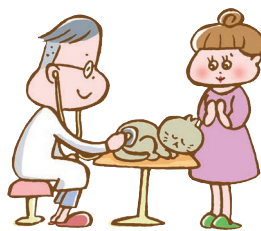
子猫は、生後2、3カ月齢くらいまでは、兄弟/姉妹で遊びながら、社会性などさまざまなことを学んでいきます。遊び相手がない環境では、構って欲しいあまり、人によじ登ったり、引っ掻いたり、咬んだりするようになります。これを放っておくと、成猫になったときも何かの刺激でこうした攻撃行動をとる猫に育ってしまいます。

●対処方法

- ☑子猫にとって遊びはとても重要です。十分に遊んであげるようにしましょう
- ☑子猫と遊ぶときには素手を使わず、おもちゃにじゃれつかせましょう
- ☑手に咬みついたら、すぐに遊んでいたおもちゃを隠したり立ち去るなどして子猫を無視します。これにより子猫は「咬んだり爪を立てると相手にしてもらえない」と学習します
- ☑無視をしたあと子猫が落ち着いてから、おもちゃを使って思い切り遊ぶことで、「おもちゃで遊ぶと楽しい」ことを覚えます

※咬まれたり、引っ掻かれても絶対に体罰を与えてはいけません。体罰を与えていると、人に寄り付かなくなったり、攻撃してくる猫に育ちます





No.4 もっと知ってほしい 子猫のこと ② 予防編



「猫が飼い主に知ってほしいと思っていること」No.4②は、「子猫」の病気予防について、飼いさんにもっと知っておいてほしいことを紹介します。子猫のうちから動物病院には定期的に通院し、健康診断を受けましょう。ほかにも、子猫を飼い始めたときの環境の整え方などについて紹介した「子猫の医食住」は、アニマル・メディア社のホームページ <http://www.animalmedia.co.jp/> から無料でダウンロードできます。

Lesson 1 子猫のうちに動物病院でしておきたいことチェック

※最低でも半年に1回は動物病院に行きましょう
※下記は一般的な成長の程度とケア実施年齢です。その子によって最適な時期を、かかりつけ獣医師に相談しましょう

猫の体の発達

2~3週齢：
歩けるようになる
3~4週齢：
乳歯が生えてくる
自分で排泄できるようになる

4~6週齢：
耳が聴こえるようになる

雌：5カ月齢頃 雄：8カ月齢頃
発情が始まる

6カ月齢頃：
永久歯へ生え変わる



1歳齢：
体の成長がほぼ完成する。
成猫用フードに切り替える

生後2カ月 6カ月 1歳
健康診断を受ける間隔はかかりつけ獣医師に相談しましょう（最低、半年に1回）

動物病院ですること

2カ月齢：
3種混合ワクチン**接種1回目

3カ月齢：
3種混合ワクチン**接種2回目

6カ月齢頃まで：不妊・去勢手術
(実施時期についてはかかりつけ獣医師に相談してください)
ウイルス検査

2回目接種の1年後：
3種混合ワクチン**追加接種

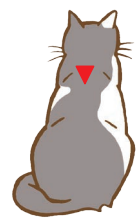
寄生虫の予防開始*（猫回虫、猫のフィラリア症、ノミ・マダニなど）
3~9週齢：2週間ごと
それ以降~6カ月齢まで：毎月駆虫薬を投与する

※薬剤によって投与できる最低年齢が異なります。かかりつけ獣医師に相談しましょう
※飼育環境などによっては、3種混合以外のワクチン接種が必要な場合もあります

滴下式駆虫薬を塗布する場所（▼）

後ろからみたところ

横からみたところ



※実際の薬剤の使用に当たっては、かならず添付文書を確認してください



1歳齢になるまで：
検便（寄生虫検査）は2~4回行う

※検便は偽陰性（本当は寄生虫がいるのに、検査でないと判定されること）となることもある検査です。猫から寄生虫が感染するリスクの高い、高齢者や幼児など抵抗力の弱い人がいる家庭ではとくに、しっかり予防薬を投与して、検査も複数回実施することが大切です



子猫によくみられる寄生虫の一種、猫回虫
写真提供：みずほ動物病院

Lesson 2

健康診断で行う検査

子猫のときに、その子の正常な値を調べておくことで、体調が悪くなったとき、病気の早期診断などに役立ちます。健康診断は定期的に行きましょう。
また、わからないこと、不安に思うことはかかりつけ獣医師に遠慮せず相談しましょう。

検査の種類

- 身体検査
- 血液検査
- 尿検査
- 検便（糞便検査）
- ウイルス検査



Lesson 3

猫のかんたん健康手帳

実施した日付（年/月/日）などを記入しておきましょう。

ワクチン接種	1回目 (生後2カ月齢以上)	2回目 (1回目の1カ月後)	3回目 (2回目の1年後)	4回目以降の接種間隔については、かかりつけ獣医師に確認しましょう		
	接種部位	接種部位	接種部位	4回目	5回目	6回目
種類：	/ /	/ /	/ /	/ /	/ /	/ /
種類：	/ /	/ /	/ /	/ /	/ /	/ /
種類：	/ /	/ /	/ /	/ /	/ /	/ /
寄生虫予防	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目
種類：	/ /	/ /	/ /	/ /	/ /	/ /
種類：	/ /	/ /	/ /	/ /	/ /	/ /
健康診断	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目
	/ /	/ /	/ /	/ /	/ /	/ /

Memo
